

～初期生育の確保で品質と収量も確保しよう！！～

初期生育は最終的に穂数（茎数）や登熟日数に関係し、品質と収量に影響してきます。

①田植え日は晴れた好天に行いましょう！

悪条件の天候（風雨等）や苗（徒長・老化苗等）で田植を行うと、その後の天候が良くてもなかなか生育が回復しません。

苗の生育状況を見ながら、好天日に田植えを行いましょう！

- ・田植えを行なう前に田植え機の栽植密度や掻き取本数等の設定を確認しましょう。
- ・田植え適期は5月5日頃（平均気温で14℃以上となり活着しやすい）
- ・植え込み本数は1株3～4本植え
- ・植え付けの深さは2～3cm

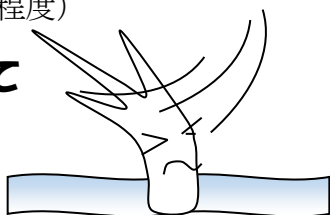
②田植え後10日間と、悪天候時は5cm程度のやや深水管理

田植え後から苗が根を張る（活着する）までの10日間は、悪天候等になると植え傷みが発生しやすい期間です。水をやや深めにし、苗を保護しましょう！

○水深別のイメージ(低温・強風時)

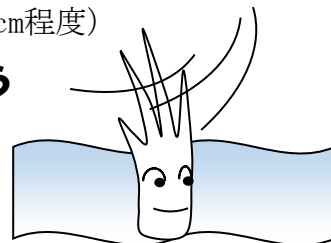
- ・水深浅め（3cm程度）

風も強いし寒くて
弱っちゃう…



- ・水深やや深め（5cm程度）

水が風と寒さから
守ってくれる！



時期	水深(cm)	効果	備考
田植え～10日間程度 (または低温・強風時)	やや深水 5cm程度	低温・風による植え傷みを 防止し、活着を良くする	水温を保てるよう漏水防止 する
田植え後 10日以降	浅水 3cm程度	水温・地温を上昇させ 分けつを促進させる	ワキが多い場合は1～2日 落水し、水の更新をする

※ 補植苗は「いもち病」の発生源となるため、補植終了後は速やかに除去しましょう。

③除草剤使用の際の注意ポイント

除草剤を使用する際は以下の点に注意してください。

- ・風が強い日などは除草剤を施用しない！
⇒根が土壌から露出し、葉害が発生する可能性があるため
- ・除草剤散布後は3～4日間は湛水状態を保ち、7日間は落水・かけ流しは行なわない！
⇒粒剤は水深を3～5cmを確保し、ジャンボ剤・フロアブル剤・豆つぶ剤については水深5～6cmの状態を保つ